

県北部7. 12災害時の白馬大雪溪 の被害状況について

白馬村役場

観光国際課 ()太田 徹

要 旨

白馬村は観光の街として、白馬三山に代表される山々、八方尾根に代表される大型スキー場を中心に、豊かな自然と拘わりを持ちながら観光の村として発展してきた。

特に、1998年の長野冬季オリンピック開催に当たり、人気21種目の競技会場が当村に決定したことから、多くの入込み者が見込まれ、成功に向け村民を挙げて取り組んでいる。

そんな矢先、昨年7月12日に発生した県北部集中豪雨災害は、当村内観光の目玉となっている白馬大雪溪被害などを中心に、少なからず影響を与えるに至った

オリンピック誘致、集中豪雨災害はいずれも当村の歴史に残る大きな出来事であり、被害状況とともに、オリンピックに集まる方々及び登山客の皆様に実情を紹介するためまとめたので報告する。

はじめに

1 長野冬季オリンピックについて

私たちは、バーミンガムでの「ザ・シティー・オブ・ナガノ」の感動を胸に最高の大会にすることとしている。

競技種目も、滑降、スーパー大回転、ジャンプ、クロスカントリー、ノルディック複合と比較的人気の高いものであり、村行政組織としてオリンピック課を新設し、IOC調査団対応等を行っているところである。

また、1日当たり観客者数もジャンプ45千人、アルペン20千人、クロスカントリー20千人とNOCでは見込んでおり、選手・役員団を合わせると相当人数になることが予測されることから、各種受け入れ体制作りに取り組んでいる。

特に、競技会場整備に伴う自然保護対策については、重点課題として細心の注意を払って取り組むこととしており、表土の張り付け処理、貴重植物の一時移植等動植物保護、自然景観維持について、専門家の意見を聞きながら万全を期すこととしている。

2 県北部7. 12災害について

(1) 関連施設への被害について

災害がスキー場及び道路等に与えた状況は、箇所数は比較的多かったもののゲレンデの小規模崩壊等であり、完全復旧により支障なく今シーズンを迎えることができた。

今後は、重要なアクセスとしてのJR大糸線の完全復旧を強く望むものである。

(2) 大雪溪の被害について

白馬大雪溪は承知のとおりその規模も大きく、剣沢、針ノ木雪溪と並んで日本の3大雪溪と言われている。また、比較的通行の便も良いことから入込み者も多く、当村にとって夏山観光の目玉となっているが、県北部7.12災害により、見るも無残な姿となった。

原因は、660mmと年間雨量の約4分の1が2日間で降ったことにより、この大規模な流水は雪溪の下を流れる北股入沢を増水させ雪溪を持ち上げたことを原因として崩壊したということが通説となっている。

更に、雪溪上部ネブカ平の長年にわたる堆積土砂も同時に流出させ、残った雪溪を黒く覆うに至り、自然の恐ろしさをまざまざと見せつけた。

被害規模は、全長約4km、深さは20m余りにも及ぶものである。白馬連峰における7月～9月の登山者数を比較しても、対前年約半数となっており、登山者ひいては当村に大きな影響を与えた。

取り組みと今後の対応について

1 長野冬季オリンピックについて

長野冬季オリンピックに対する今後の対応についてであるが、基本的には、I O C、J O Cの意向を受けての、競技会場の整備、交通・宿泊施設の確保について引き続き充実・整備していくこととしている。

ジャンプ台は完成し、他の施設についても既存コースを含め鋭意整備を進めているところであり、競技に支障のないよう専門家の意見を聞きながら、対応していくこととしている。

村内アクセス道路の整備についても、高架橋など大型工事を始とする工事が順調に進み、一部はすでに完成し共用されている実態にある。

当村は豊かな自然との関わりが大変深く、今回も自然に優しい長野冬季五輪をモットーに、貴重植物の移植などには自然保護専門家などの意見を尊重しながら、法面復元など表土処理に十分配慮し、慎重に工事を進めいくこととしている。

更に、重要なアクセスとしての、J R大糸線の早期完全復旧を望むものであり、長野・新潟両県を始め、周辺市町村と一体となって取り組んでいる。

今後、交通規制、バス、J R、空路など輸送手段についての細部、具体的な取り組みについて、さらに検討していくこととしている。

宿泊施設については、歴史のあるスキー場、観光地を控えていることもあり、年間380万人余りを迎える国際的保養地として年々増加・大型化し現在では、900軒を越える状況にある。

しかしながら、オリンピックが開催される2月は一般スキー客の入込みのピーク時を迎えることにもなる。特に村内においては外人向けの施設が不足気味であり、関係者の協力を得ながら、今後に向けて受け入れ体制作りに取り組んでいるところである。

2 大雪溪の被害について

大雪溪の被害については、現存する経験者の話では、規模は昨年ほどではなかったにしろ、過去2度ほど同類の事態が生じたことがあり、降雪により都度回復していると聞いている。本年は幸い降雪量も多く復元の可能性について期待しているところである。当面は、安全登山のための応急措置、復元措置を可能な限り講ずるとともに、今後の推移を経過観察し参考にしたいと考えている。

なお、今回の災害は雪溪のみならず、当該地に至る県道白馬岳線、及び、登山道にも被害をもたらしたが、夏山シーズン中であることを考慮のうえ復旧に努めた結果、ヘリ等を使用し、約10日間程度で復旧することができた。

今後の構想としては、道路整備による交通手段の確保により、周辺観光施設を含め、同雪溪へのアクセスの方法を検討し、多くの方々に対する利便の提供について検討していきたいと考えている。

この結果としては、冬季に片寄りが多い宿泊施設の稼働率について、夏場への平準化の一助になるものと思う。

まとめ

当村において有史以来の出来事を迎え、対応に対する真価が問われているものと思う。自然環境を活用した観光への取組みは重要な意義を持っており、有効適切な開発は総合的發展に多に寄与するものとする。

ワールドカップ等を通じて、オリンピック開催のための各種条件を整え成功に導くことはもとより、終了後の競技、宿泊、道路等施設の運用及び知名度の有効活用に期待している。

夏場における観光資源の目玉である白馬大雪溪については、できるだけ多くの皆様に触れ合っていただくためのアクセス道路の整備など受け入れ体制の充実、観光施設・温泉資源等との組み合わせ等により、当村発展の一助としていきたいと考えている。

皆様の指導を受けながら、更には、当村の環境を活かしながら国際保養地として将来に向かい優れた自然との共存を図り、多くの皆様に親しまれる村作りに努めているところである。

(詳細については、ビデオテープに編集してあるので、問い合わせ願いたい。)